



新成長産業としての 介護

現場が考える介護の姿～地域を支える拠点施設として

平成25年度 北海道ブロック カントリーミーティング in 札幌

開催要綱

超高齢社会を迎える我が国では、社会保障制度改革は避けて通ることのできない命題です。介護・福祉分野においては、「地域包括ケアシステム」の構築を図るとして、在宅サービスの充実を中心に施策が進められているところですが、地域性や非効率性、零細体質の供給体など様々な要因により、進捗がままならない状況にあります。

点在する多様なサービスを有機的かつ効率的、効果的に連携させていくには、拠点となる社会福祉法人(介護施設)等によるコーディネート機能の発揮が不可欠です。私たちは、根拠に基づきケアを提供する「科学的介護」(認知症ケア、看取り、おむつゼロの取り組み等)に挑み、高機能介護施設への進化を遂げるとともに、地域の生活を包括的に支える生活支援機能の強化をもって、支援ニーズをとらえ、「地域を支える拠点施設」になることを求められています。

しかしながら、それらを牽引する介護人材は、質・量ともに「枯渇時代」にあります。最低限の介護サービス提供すら危ぶまれるなか、2025年には要介護・支援者は755万人、必要な介護従事者は249万人(現状に100万人以上の増員)にも及ぶと言われています。処遇改善は勿論のこと、他産業からの人材移動や外国人材の受入れ促進、介護機器やロボットの活用等、人材マネジメント力の醸成等によって介護人材の需給計画を示さなければ、我が国の介護・福祉は崩壊しかねません。

これら課題を突破するためには、介護を「新たな成長産業」とする新たな戦略が不可欠です。科学的介護と豊かな地域福祉に挑み、魅力ある雇用となる「挑戦型事業体」として、社会福祉法人の抜本的構造改革をもって強固なガバナンスとビジョンの構築を果たしていかなければなりません。

12年に渡って現場の声を集積し、課題に向き合ってきた「21世紀委員会・カントリーミーティング」は、我が国介護・福祉の次代を担うリーダーが集う発信の舞台です。時代に応える「新成長産業としての介護」を描く原動力を生み出すべく、皆さまのご参集をお願いいたします。

全国老施協・21世紀委員会の進める取組み

- 1 社会保障費抑制 介護保険料1万円阻止は私たちの手で
- 2 新成長産業の担い手として 雇用をつくり高品質介護をつくるは 挑戦型社会福祉法人
- 3 地域を支える社会福祉法人は 高品質介護と認知症ケアを武器にしてこそ
- 4 今 介護人材枯渇時代 人材移動とアジアの人材で一気に

- 1 主 催 公益社団法人全国老人福祉施設協議会
北海道老人福祉施設協議会 ・ 北海道デイサービスセンター協議会
- 2 企画運営 全国老施協21世紀委員会 ・ 北海道老施協21世紀委員会
- 3 開催日 平成25年11月28日(木)～29日(金)
- 4 会場 札幌市／ホテル札幌ガーデンパレス
(札幌市中央区北1条西6丁目 TEL 011-261-5311)
- 5 参加対象 若手経営・管理者、介護チーフ、ソーシャルワーカー、看護職員、栄養士等の
北海道内高齢者福祉施設に勤務するもの
- 6 参加定員 200名
- 7 参加費 北海道老施協・北海道デイ協 会員 10,000円 / 非会員 13,000円
※1 参加費には、情報交換会代も含まれています。(原則全員参加)
※2 参加費については、当日受付において申し受けます。
※3 領収書については、参加費(会員5,000円、非会員8,000円)と情報
交換会(5,000円)を分けてお出しいたします。

8 プログラム

<1日目>

12:30 13:00 13:10 13:30 14:30 14:50 17:50 18:30 20:00

受付	全体会			移動 休憩	分科会	休憩	情報 交換会
	開 会	趣旨 説明	基調報告 課題提起		グループ ディスカッション		

<2日目>

9:00 10:00 10:20 11:50

全体会			
総合 ディスカッション	休 憩	特別講演	閉 会

9 内 容

- (1) 開会式(13:00～13:10)
- (2) 趣旨説明(13:10～13:30)
公益社団法人全国老人福祉施設協議会 21世紀委員会
- (3) 基調報告・課題提起(13:30～14:30)
公益社団法人全国老人福祉施設協議会
- (4) 分科会(14:50～17:50)
 - 【第1分科会】経営① 特別養護老人ホーム施設職員向け
 - 【第2分科会】経営② 養護・軽費・ケアハウス・デイサービスセンター・その他 施設職員向け
 - 【第3分科会】特別養護老人ホーム施設職員向け
 - 介護① 「ケアの標準化を考える」「人材育成を考える」
 - 介護② 「認知症ケアを考える」「医療的ケアを考える」
 - 【第4分科会】養護・軽費・ケアハウス・デイサービスセンター・その他 施設職員向け
 - 介護③ 「ケアの標準化を考える」「人材育成を考える」
 - 介護④ 「認知症ケアを考える」「医療的ケアを考える」

経営分科会

福祉施設は単なる『預かり施設』ではなく、認知症ケア、看取り、おむつゼロ等に取り組み、専門性の高い高機能施設として地域の介護不安を解消し、安心を作る『拠点施設』になることが求められています。

24時間365日、介護専門職がいる施設が今、具体的に地域ケアをどのように考えていくべきで、地域は施設に対して何を望んで、何を還元して欲しいのでしょうか？老人福祉施設が地域に提供する社会資源とは何でしょうか？

そして、地域の拠点となるために、施設(法人・会社)が何をしているかを地域や社会に『見える化』し、経営能力やガバナンス(経営統治)を強化するために構造改革に取り組まなければなりません。施設(法人・会社)の社会貢献とは何であるべきで、10年後、20年後の施設のビジョンを描きながら、ビジネス戦略を誰が考え、行動していきますか？

基盤を強化し強い介護業界となれば、魅力ある雇用の場をつくることができ、他産業からも人材が集まり『新成長産業としての介護』を描くことができます。

待っているだけではなく、施設(法人・会社)が、そして職員が、今、どのように行動し、何が必要なのか、施設で3年後、5年後を見据え、キャリアアップが描けていますか？

- ① 地域包括ケアにおける施設ケアの役割を考える
- ② 介護人材枯渇時代における人材の確保と育成を考える
- ③ 社会福祉法人の経営基盤強化を考える

介護分科会

① ケアの標準化を考える

根拠のある介護、「科学的介護」に基づいた自立支援と高品質のケアを目指した介護が求められている今、行っているケアの根拠が説明できるようなアセスメントと根拠に基づいた介護の実践が必要です。

それらを実践していくことにより、地域介護の中核として介護職の専門性を高めていくことが今後求められます。

そのための、施設での課題を提起していきます。

② 人材育成を考える

人材育成には施設のケア水準の明確化を基盤に、新人職員に対し「統一したケア」の伝達が必要です。

更に、施設内(法人内)で3年、5年先を見据えキャリアアップする仕組みづくりを構築していくことも必要です。

人材育成・人材定着について現場職員の視点で討論し課題提起していきます。

③ 認知症ケアを考える

認知症ケアは今や高齢者介護にとって標準のケアとなっています。

その中で、介護と医療が連携しチーム一体となって高齢者の様子を注意深く見、高齢者本人の心を見るようにケアに取り組むことがとても重要なことです。

他施設同士でのケアの相違点を探り、問題提起します。

④ 医療的ケアを考える

利用者や利用者家族にとっては「終の住処」となるか否かが、重要なポイントになると考えられ、それを左右するのが看取りを含む医療的ケアへの対応です。

医師・看護師・介護職等の多職種連携を成熟させるために何が必要となるのか、施設において医療対応機能を向上させる必要はないかなど、介護現場に求められる医療的ケアについて課題提起します。

《分科会注意事項》

- ① 大きく「経営」と「介護」に分け、更に特養施設と養護・軽費・ケアハウス・デイサービス・その他施設で分科会を分けてディスカッションします
- ② 4つの分科会の内、希望の分科会へお申込みください
- ③ 介護分科会は第1または第2分科会をお選びいただいたうえで、ディスカッションしたいテーマの組み合わせをお選びください
- ④ 分科会では、参加申込書に記載いただいた施設種別・職種等を参考とし、事務局にてグループ分けをいたします
- ⑤ 参加いただく分科会は、当日配布する名簿にてお知らせいたします
- ⑥ 全体会での基調報告と課題提起及び参加者より事前にいただいたアンケートをもとに、展開します
- ⑦ 各分科会の進行・運営は北海道老施協21世紀委員会にて進めます

(5) 情報交換会(18:30～20:00)

1日目のプログラム終了後、全国老施協役員や参加者同士の情報交換・ネットワークづくりを図る場として情報交換会を設定しています。
費用は参加費に含まれておりますので、必ずご参加ください。

(6) 総合ディスカッション・分科会報告(9:00～10:00)

前日の各分科会での議論内容を取りまとめ、それぞれ10分程度で報告を行い、全国老施協役員から総評(まとめ)を行います。

(7) 特別講演(10:20～11:50)

講 師 和田 行男 氏(株式会社大起エンゼルヘルプ クオリティマネージャー)
テ ー マ 「北海道の介護職員へ～プロフェッショナルから熱いエール～」



【講師プロフィール】

高知県生まれ。
1987年、国鉄の電車修理工から福祉の世界へ大転身。
特別養護老人ホームなどを経験したのち、99年、東京都で 初めてとなる「グループホームこもれび」の施設長に。
現在は大起エンゼルヘルプでグループホーム・デイサービス・小規模多機能ホームなどを統括する責任を負いながら、2012年名古屋市昭和区で認知症対応型共同生活介護と小規模多機能型居宅介護の複合施設を開設する。
2003年に書き下ろした「大逆転の痴呆ケア」(中央法規)が 大ブレイク、2012年NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」で、介護の現場で奮闘する姿が放映され反響を得た。

(8) 閉会式(11:50～)

10 申し込み・事前アンケート

参加をご希望される方は、別紙申込書を**11月15日(金)必着**にて北海道老施協事務局へFAXでお申し込みください。
事前アンケートにもご協力ください。

11 個人情報保護について

お申込により知り得た個人情報(氏名、年齢、住所、連絡先等)については、個人情報保護法に基づき、カンントリーミーティング運営業務(参加者への連絡、参加券の送付、参加者名簿の作成等)以外には使用しません。

12 問合せ先/事務局連絡先

北海道老人福祉施設協議会 事務局

担当者: 富川/朝倉

北海道社会福祉協議会 施設経営支援部施設福祉課内

〒060-0002

札幌市中央区北2条西7丁目 北海道社会福祉総合センター

TEL 011-241-3766 / FAX 011-280-3162

13 会場周辺地図



■ JR

札幌駅南口から徒歩7分

■ 地下鉄

- (1) さっぽろ駅南北線10番出口
- (2) 大通駅東西線1番出口から徒歩5分

※1 お越しの際は公共交通機関をご利用ください。

※2 車でお越しの場合の優待は対応できかねます。

平成25年度 カントリーミーティング 申込書・事前アンケート

フリガナ		年齢	職種・役職	経験年数	
氏名	男・女	歳		年 月	
フリガナ		フリガナ			
施設名		法人名			
施設種別	特養 ・ 養護 ・ 軽費 ・ ケアハウス	市町村名			
	デイ ・ その他()	電話番号			
道老協会員 ・ 道デイ協会員 ・ 非会員 ※該当するものに○印を付けてください					
希望分科会 ※希望の分科会1つに○をつけてください。	経営分科会		介護分科会		
	第1分科会 / 第2分科会	第3分科会		第4分科会	
		介護①	介護②	介護③	介護④
		ケアの標準化 人材育成	認知症ケア 医療的ケア	ケアの標準化 人材育成	認知症ケア 医療的ケア

↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑
※どれか1つに○

①分科会テーマについての施設・事業所の取り組みや課題等をお書きください。

②施設・事業所で現在取り組んでいること、また、全国・道老協への提言等をお書きください。

平成25年11月15日(金) 必着